

新寝屋川八景を訪ねる散策コース

高宮廃寺跡コース

太秦高塚古墳から古代の丘をそぞろ歩く

いにしへの歴史ロマンへの誘い



太秦高塚古墳

裏面地図★印の場所には、写真のようなルートサイン（説明や地図板のついた石碑）があります。八景を巡って、様々な表情の鉢かづき姫を、探してみてください。

★スタート★



★ゴール★

道順や各所の詳細については寝屋川市のホームページをご覧ください。（右側のQRコードからアクセスできます）

※QRコードは㈱デンソーウェブの登録商標です。



1 水本村役場跡 みずもとむらやくばあと

昭和36年(1961)までは、寝屋川市東部のJR学研都市線沿線は、北河内郡水本村の行政区域でした。水本村は明治22年(1889)に寝屋・打上・燈油の3つの村が合併してできました。人口は2000人余りで、村役場は打上のこの場所に置かれました。水本村は、昭和36年に寝屋川市と合併したことで現在の寝屋川市の形となりました。



2 太秦高塚古墳 うずまさたかつかこふん 新寝屋川八景

大阪市水道局豊野浄水場正門の横に所在する古墳時代中期(5世紀後半)に築かれた古墳です。古墳は上から見ると直径37mの円丘部の北西側に方形の造出を持ち、周囲に濠が巡っています。発掘調査によって墳丘が2段に築かれており、1段目の平坦部分に円筒埴輪が並んで立てられていたことがわかりました。墳頂部では、死者を納めた木棺の跡が見つかり、鍬(やじり)や甲(よろい)などの鉄製品が出土しました。平成13年に史跡整備が行われ、太秦高塚古墳公園として市民に公開されています。(市指定史跡)



復元された円筒埴輪



3 熱田神社 あつたじんじゃ (太秦廃寺跡)

太秦地区の氏神で、祭神は日本武尊です。入口の鳥居は享保8年(1722)の銘があり、江戸時代に建てられたものです。境内からは古瓦が出土しており、また、建物の柱の下に据えた礎石と思われる巨石が認められたため、付近に古代寺院(太秦廃寺跡)があったと考えられています。付近では杜鹿の埴輪の頭部(市指定文化財)が出土しており、太秦古墳群と関係する古墳があったと考えられます。



鹿の埴輪



4 伝・秦刀鍛冶屋敷跡 でん・はたかななかじやしきあと

鎌倉時代に後鳥羽上皇が全国の名工に刀を造らせました。その中にこの地の出身である秦行国(行綱)と呼ばれる人物がいたとされます。秦地区には「鍛冶屋垣内」「献刀谷」という刀鍛冶に関連した小字(地名)が残っており、このあたりが刀鍛冶の屋敷があった場所と伝えられています。かつてこの一角にあった井戸は、この刀鍛冶が使用したものとされていました。



5 豊野村役場跡 とよのむらやくばあと

豊野村は、明治22年(1889)讃良郡に属していた国松・秦・太秦・高宮・小路の5か村が合併してできました。村名の由来は「豊穰の沃野」(みのり豊かな土地)を意味します。ここには村役場が置かれ、昭和18年(1943)に他の1町2村と合併して寝屋川町となりました。



6 五藤池 ごとうがいけ

かつては本市最大のため池でした。大部分が埋め立てられ、市民会館や市立第一中学校、東コミュニティセンターが建てられています。高宮地区一帯の農業用水用のため池ですが、養魚も行われ、かつてはコイ・フナ・モロコ・エビなどの水揚げがありました。



7 秋玄寺 しゅうげんじ

秋玄寺の十三仏板碑は、舟形で石の正面に初七日から三十三回忌までの仏事供養をつかさどる13の仏が彫られています。高さが114cmあり、本市最大のもので、永禄13年(1570)の銘をもつことから、戦国の世に立てられたことがわかります。市指定文化財になっています。



十三仏板碑

8 高宮神社 たかみやじんじゃ

平安時代にまとめられた『延喜式神名帳』に神社名が記されている、いわゆる延喜式内社と呼ばれる由緒のある神社です。江戸時代には旧讃良郡の一の宮でもありました。祭神は天剛風命(あめのこかぜのみこと)で、大社御祖神社の祭神の天萬魂命(あめのよろずたまのみこと)の子神とされています。大社御祖神社も延喜式内社で、一つの村の中に延喜式内社が2か所もあるのは珍しいことです。



9 高宮遺跡 たかみやいせき

高宮廃寺跡の周囲に広がる遺跡です。廃寺西側の住宅開発に伴って行われた発掘調査では、一辺1m以上の巨大な柱穴をもつ建物跡が見つかりました。見つかった柱穴は埋戻し保存され、一部は児童公園内にカラーブロックで遺構表示されています。同様の建物跡は、高宮廃寺跡の下層でも見つかっており、高宮廃寺より古い時期のものと考えられています。この建物は高宮廃寺を建立した氏族に関わるものではないかと想定されます。



10 大社御祖神社 おおもりみおやじんじゃ (高宮廃寺跡)

境内には古瓦が散布し、建物の土壇(基壇)や礎石が残されていることから、古代寺院の存在が知られていました。実際に発掘調査が行われ、飛鳥時代の終わり頃(白鳳時代:7世紀後半)に建てられたことがわかりました。東塔および金堂の基壇や、講堂・回廊といった建物遺構が見つっています。高宮廃寺は創建後、奈良時代を通じて営まれた後廢絶し、鎌倉時代~室町時代に再建されたと考えられ、北河内地域でも屈指の古代寺院跡として、昭和55年(1980)に国指定史跡となりました。



東塔礎石



11 二月堂灯籠 にがつどうとうろう

府道枚方富田林線沿い高倉1丁目にある消防ポンプ車庫の横に、2つの石灯籠が並んでたっています。左側の大きな灯籠は天保14年(1843)の年号が刻まれており、江戸時代末に自然石を組み合わせて建てられたものです。正面には「二月堂」と刻まれており、この地にあったとされる「二月堂観音講」の人々によってたてられたと考えられます。



12 正縁寺 しょうえんじ

浄土宗知恩院の末寺で、元は守口市佐太の来迎寺の末寺でした。境内には石仏・板碑など様々な石造物が遺されています。特に「南無阿弥陀仏」と刻まれた2基の六字名号板碑にはそれぞれ永禄2年(1559)・天正18年(1590)、十三仏板碑には天正14年(1586)の年号が刻まれています。いずれも、中世に製作されたことがわかります。※石造物の拝観を希望される人は寺院の庫裏に声をかけてください。



十三仏板碑



13 埋蔵文化財資料館 まいぞうぶんかざいしりょうかん

昭和56年、JR東寝屋川駅(現寝屋川公園駅)前の寝屋川東ファミリータウン中1番館の一角に開設された北河内地域最初の文化財展示施設です。市内の遺跡から見つかった土器・石器・木製品等の考古資料をテーマごとに展示しています。常設で展示している高宮八丁遺跡出土貯蔵穴(弥生時代)と長保寺遺跡出土古代船(古墳時代)は、市指定文化財です。



※掲載内容は、2024年12月時点のものです。

新寝屋川八景を巡る散策コース 高宮廃寺跡コース

縄文時代から人々が暮らし続けた東部丘陵地は、古墳時代に多くの古墳が築かれ、古代には寺院や倉庫群が建立され栄華を極めます。
いにしへの歴史に思いを馳せながら街を歩くと壮大なロマンを感じます。

■距離：約9km ■所要時間：約3時間

スタート：JR寝屋川公園駅（東口）

0.5km／9分 ※距離・所要時間は目安です。

1 水本村役場跡

1.7km／29分

2 太秦高塚古墳 ◆市指定史跡 新寝屋川八景

0.8km／14分 ★休憩 ベンチあり

3 熱田神社（太秦廃寺跡）

0.7km／12分

4 伝・秦刀鍛冶屋敷跡

0.5km／9分

5 豊野村役場跡

0.3km／5分

6 五藤池

0.9km／15分

7 秋玄寺 ◆市指定文化財：十三仏板碑

0.14km／3分

8 高宮神社

0.5km／9分

9 高宮遺跡

0.4km／7分 ★休憩 ベンチあり

10 大社御祖神社（高宮廃寺跡） ◆国指定史跡

1.5km／25分 ★寝屋川第2トンネル南緑地 トイレあり(平日のみ)

11 二月堂灯籠

0.1km／2分

12 正縁寺

2km／34分

13 埋蔵文化財資料館

0.1km／2分

ゴール：JR寝屋川公園駅（東口）

発行：寝屋川市文化スポーツ室

